

1: 船越駿河守、2: 下館、3: 和歌山、4: 高崎、5: 沼田、6: 府中、7: 尼崎、8: 佐伯、9: 弘前、10: 佐賀、11: 小城、12: 松山、13: 忍、14: 時枝、15: 岡田、16: 新田、17: 小田原、18: 足守、19: 大村、20: 桑名、21: 久留米、22: 三日月、23: 名古屋、24: 庭瀬、25: 丸岡、26: 長岡、27: 上田主水、28: 秋田、29: 久留米、30: 延岡、31: 中津、32: 富山、33: 人吉、34: 臼杵、35: 成羽、36: 仙台、37: 浜田、38: 福井、39: 唐津、40: 水戸、41: 島原、42: 金沢、43: 松山、44: 山形、45: 府内、46: 岡、47: 府内、48: 岡山、49: 平戸、50: 大洲、51: 宇和島、52: 秋島、53: 福岡、54: 鳥取、55: 日出、56: 森、57: 今治、58: 広島、59: 大垣、60: 久留米、61: 明石、62: 岩国、63: 姫路、64: 柳川、65: 高松、66: 高松、67: 徳島、68: 丸亀、69: 熊本、70: 鹿島、71: 杵築、72: 津山、73: 龍野、74: 安志、75: 小倉、76: 西條、77: 壬生、78: 彦根、79: 盛岡、80: 吉田、81: 松江、82: 蓮池、83: 福山、84: 萩、85: 新谷、86: 久留米、87: 出石、88: 徳山、89: 鹿兒島、90: 林田、91: 鹿兒島、92: 小松、93: 松平久之丞、94: 三田、95: 有栖川宮、96: 肥前、97: 富岡、98: 佐土原、99: 名古屋、100: 高鍋、101: 津和野、102: 五島、103: 磐城平、104: 森甚五兵衛、105: 洲本  
 ※「蔵屋敷表」(大阪市参事会 1912『大阪市史 附圖 目次及説明』)より地図の範囲の蔵屋敷のみ抽出。大名以外のものも含む。太字は本展覧会で取りあげた蔵屋敷。

◆「蔵屋敷を掘る」講演会(その1)

日時: 令和7年1月25日(土)午後1時30分~4時30分(受付:午後1時~)  
 内容: 「蔵屋敷の基礎知識」  
 豆谷 浩之(大阪歴史博物館 学芸員)  
 「ゴミ穴から探る蔵屋敷のくらし—住人の変遷(松江・今治・津山藩)から」  
 大庭 重信(一般財団法人 大阪市文化財協会 学芸員)

◆「蔵屋敷を掘る」講演会(その2)

日時: 令和7年2月15日(土)午後1時30分~4時30分(受付:午後1時~)  
 内容: 「蔵屋敷の蔵と産物—高松藩蔵屋敷の場合」  
 松本 百合子(大阪歴史博物館 学芸員)  
 「海の大名—高松藩蔵屋敷跡の発掘調査から」  
 南 秀雄(一般財団法人 大阪市文化財協会 学芸員)

◆考古学散歩「蔵屋敷を歩く」

日時: 令和7年1月18日(土)、2月1日(土)  
 いずれも午前10時~12時30分(受付:午前9時30分~)  
 案内: 豆谷 浩之・杉本 厚典(大阪歴史博物館 学芸員)

◆スライドトーク「発掘!大名たちの蔵屋敷展、ここが見どころ!」

日時: 令和7年1月11日(土)、2月11日(火・祝)、2月22日(土)  
 いずれも午後1時30分~2時15分(受付:午後1時~)  
 案内: 杉本 厚典(大阪歴史博物館 学芸員)

[表面写真] 1. 鳥取藩蔵屋敷から出土した墨書土器 江戸時代前期~中期初頭(17世紀後半~18世紀初頭) 中之島蔵屋敷跡、2. 泡盛の瓶 江戸時代中期~後期(18世紀後半~19世紀前半) 中之島蔵屋敷跡、3. ままごと道具 江戸時代中期~後期(18世紀後半~19世紀前半) 久留米藩蔵屋敷跡、4. 高松藩蔵屋敷の蔵の礎石 江戸時代中期(18世紀) 中之島蔵屋敷跡、5. 鍋島 江戸時代中期(17世紀末~18世紀前半) 佐賀藩蔵屋敷跡  
 ※[表面写真]1・2・3・5は大阪市教育委員会蔵、遺跡はいずれも大阪市北区。

大阪歴史博物館  
Osaka Museum of History

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32  
 電話 06-6946-5728 FAX 06-6946-2662  
<https://www.osakamushis.jp/>

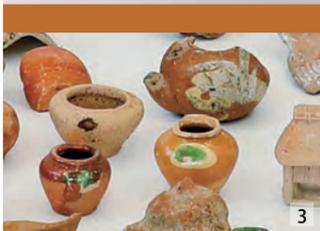
特別企画展「発掘!大名たちの蔵屋敷—「天下の台所」に集う米・物・人—」展示リーフレット  
 会期: 令和7年(2025)1月11日(土)~3月3日(月)  
 会場: 大阪歴史博物館 6階 特別展示室  
 主催: 大阪歴史博物館・(一財)大阪市文化財協会  
 展示担当: 杉本厚典・豆谷浩之・松本百合子  
 塚田 義・白川貴子

開館時間: 午前9時30分~午後5時  
 ※ただし入館は閉館30分前まで  
 休館日: 火曜日・年末年始(12月28日~1月4日)  
 観覧料: 常設展示観覧料でご覧になれます。  
 大人 600円(540円)  
 高校生・大学生 400円(360円)  
 ※()内は20名以上の団体料金  
 ※中学生以下、大阪市内在住の65歳以上の方(要証明提示)、障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料。

関連行事の詳細は当館ホームページ(<https://www.osakamushis.jp/>)にてお知らせします。



電車・バスでお越しの方  
 Osaka Metro谷町線・中央線「谷町四丁目」駅②・③号出口  
 大阪シティバス「馬場町」バス停前



特別企画展

「天下の台所」に集う米・物・人

大名たちの蔵屋敷

発掘!



KURAYASHIKI

Discover! Kurayashiki Warehouse—Residences of Daimyo Feudal Lords

[開館時間] 午前9時30分~午後5時 ※入館は閉館30分前まで  
 [休館日] 火曜日 ※2月11日(火・祝)は開館、翌12日(水)は休館  
 [主催] 大阪歴史博物館、一般財団法人 大阪市文化財協会  
 [後援] 公益財団法人 大阪観光局  
 [観覧料] 常設展示観覧料でご覧になれます。  
 大人600円(540円)、高校生・大学生400円(360円)  
 ※()内は20名以上の団体料金 ※中学生以下、大阪市内在住の65歳以上の方(要証明提示)、障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料。

大阪歴史博物館  
6階 特別展示室

令和7年(2025) 1.11 ± ~ 3.3 月

大阪歴史博物館  
Osaka Museum of History

一般財団法人  
大阪市文化財協会  
Osaka City Cultural Properties Association

## 第一章 天下の台所と蔵屋敷

江戸時代、多くの藩が年貢米や特産品を売りさばくため、中之島・堂島など水辺に蔵屋敷を構えた。この地は江戸時代前期に河村瑞賢の治水工事によって急速に整備



大坂中之島図 瑞賢による堂島川・曾根崎川工事前の中之島の様子を示した図。本五分一町に松平安芸守(広延宝6年(1678)頃 大阪歴史博物館蔵 島藩)、常安町に細川越中守(熊本藩)の名があり、各敷地には表間口の間数が記載される。

## 第二章 発掘!大名たちの大坂蔵屋敷

各藩から運ばれてきた年貢米は、安治川口で川船に積み替えられ、各蔵屋敷に運ばれた。広島藩蔵屋敷では産地を記した木の荷札が見つかり、藩内の米や小麦・粟が運び込まれたことがうかがえる。

また蔵屋敷は、佐賀・鳥取・広島・久留米・高松・熊本



高松藩蔵屋敷で見つかった船入と雁木 江戸時代中期～後期(18世紀～19世紀中葉) 中之島蔵屋敷跡(北区)

## 第三章 お米をお金に・・・

蔵屋敷に保管された蔵米は「蔵元」と呼ばれる商人によって入札にかけられた。米を落札した商人は藩の会計管理をする「掛屋」と呼ばれる両替商に代銀を支払い、「米切手」を受け取った。藩にとってこの代銀こそが大きな収入であり、さまざまな出費に用立てられた。また蔵元や掛屋は藩主から扶持米が与えられ、仕事を行うと藩から一定の手数料が支払われた。

一方、米切手は米市場で取引された。高値で売れることもあれば、その逆もあったが、米切手を発行元の蔵屋敷へ持っていくとそこに記された俵の数の米を受け取ることができた。

が進んだ。整備直後は畠がひろがり陶器を焼く窯が営まれるような都市化の進んでいない場所であったが、舟運の良さから大名たちが蔵屋敷を設けるようになった。



大坂中之島図 瑞賢による堂島川・曾根崎川工事前の中之島の様子を示した図。本五分一町に松平安芸守(広島藩)、常安町に細川越中守(熊本藩)の名があり、各敷地には表間口の間数が記載される。

## 第二章 発掘!大名たちの大坂蔵屋敷

各藩から運ばれてきた年貢米は、安治川口で川船に積み替えられ、各蔵屋敷に運ばれた。広島藩蔵屋敷では産地を記した木の荷札が見つかり、藩内の米や小麦・粟が運び込まれたことがうかがえる。

また蔵屋敷は、佐賀・鳥取・広島・久留米・高松・熊本



高松藩蔵屋敷で見つかった船入と雁木 江戸時代中期～後期(18世紀～19世紀中葉) 中之島蔵屋敷跡(北区)

## 第二章 発掘!大名たちの大坂蔵屋敷

各藩から運ばれてきた年貢米は、安治川口で川船に積み替えられ、各蔵屋敷に運ばれた。広島藩蔵屋敷では産地を記した木の荷札が見つかり、藩内の米や小麦・粟が運び込まれたことがうかがえる。

また蔵屋敷は、佐賀・鳥取・広島・久留米・高松・熊本

肥前蔵(佐賀藩)の米切手 筑後蔵(久留米藩)の米切手

## 第四章 蔵屋敷での暮らしと交流

蔵屋敷の発掘ではさまざまな日用品や道具などが出土する。簪や弁といった髪留め、京土産の小町紅(口紅)、子供たちのおもちゃなどがあり、蔵屋敷の役人たちが屋敷の中で家族とともに暮らし、仕事と生活を両立させていたようすが目に浮かぶ。

また、高級磁器の「鍋島」や、小倉藩の三官飴の壺、琉球の泡盛の瓶などが出土することもあり、名産品の贈答があったことがうかがえる。



広島藩蔵屋敷で見つかった土人形 江戸時代中期～後期(18世紀～19世紀中葉) 広島藩蔵屋敷跡(北区) 大阪市教育委員会蔵



高松藩蔵屋敷出土の角筆 江戸時代後期(19世紀中葉) 中之島蔵屋敷跡(北区) 大阪市教育委員会蔵

## 第五章 蔵屋敷の終焉

幕末の動乱を乗り切ったものの、明治4年(1871)の廃藩置県で蔵屋敷はその役割を終えた。その後、建物が引き続き倉庫として用いられたり、広い敷地を活かして工場や学校、病院などへと生まれ変わった。津山藩蔵屋敷跡地では、硫酸瓶や薬品容器、実験に使う化学陶磁器が見つかり、硫酸を原料として晒粉、肥料などを製造する化学工場があったとみられる。また、久留米藩蔵屋敷の跡地には大阪府師範学校、高松藩蔵屋敷の跡地には大阪工業学校造船部が開設された。

米・物の集まる天下の台所から、知識・技術の集積地へ。大阪の水辺にはいつの時代も、進取の気風が映し出される。

化学陶磁器 明治時代前半(19世紀後葉) 中之島蔵屋敷跡(北区) 大阪市教育委員会蔵



鍋島 江戸時代中期(17世紀末～18世紀前葉) 佐賀藩蔵屋敷跡(北区) 大阪市教育委員会蔵 「鍋島」は佐賀藩主鍋島家が将軍家への献上を主な目的として製作した最高水準の磁器。



泡盛の瓶 江戸時代中期～後期(18世紀後半～19世紀前半) 中之島蔵屋敷跡(北区) 大阪市教育委員会蔵



化学陶磁器 明治時代前半(19世紀後葉) 中之島蔵屋敷跡(北区) 大阪市教育委員会蔵